



北海道大学大学院理学研究科・理学部

広 報

第 15 号
2001年(平成13年)4月

目 次

白川英樹博士が学術講演会のため来訪	2	海外からの来訪者	7
平成 13 年度理学研究科入学式挙行される	2	学会賞等の受賞	8
11m 電波望遠鏡を本学に設置	2	学位授与	8
北海道大学大学院理学研究科業務功労者表彰を実施 ...	3	新任教官紹介	11
大学院理学研究科技術部技術職員研修(第 10 回).....	3	訃報	12
研究活動だより(19).....	4	人事異動	12
研究活動だより(20).....	5	行事予定	16



白川英樹博士が学術講演会のため来訪

去る2月9日、札幌市民会館において、2000年度ノーベル化学賞受賞者、白川英樹博士の講演会が開催され、約1800名が聴講しました。

白川博士は、「ノーベル賞と物質科学」と題して、授賞式の模様、ご自身の研究の経緯などを話された後、研究の進め方、考え方などについて約1時間ご講演されました。

その後、引き続き行われた参加者からの質疑では、一つずつ丁寧に応答され、大変和やかなうちに講演会は終了しました。

講演会に先立ち、白川博士御夫妻は、理学研究科に来訪され、このたびの来道に際し、コーディネーターの労を取られた長田義仁教授の研究室を30分程訪問されました。

その後、永理学研究科長を表敬訪問され、理学研究の在り方などについて、和やかに懇談されました。

白川博士は、理学部本館の立派な建物にも強く感銘を受けられた様子でした。



研究科長を表敬訪問

平成13年度理学研究科入学式挙行される

本研究科の入学式が4月4日(水)午前10時から5号館低層棟大講義室を会場に挙行されました。

これは、修士課程入学者及び博士課程入学者のうち他大学等の修士課程を修了した学生を対象に、平成11年度から行われているものです。

式は、永研究科長から告辞が述べられた後、評議員、専攻長等の紹介がありました。

なお、本年度の修士(博士前期)課程及び博士後期課程入学者は次のとおりです。

	修士課程	博士後期課程
数学専攻	46名	6名
物理学専攻	37名	11名
化学専攻	54名	13名
生物科学専攻	54名	27名
地球惑星科学専攻	27名	13名

11m電波望遠鏡を本学に設置

2001年1月まで、総務省通信総合研究所で首都圏地殻変動(KSP)プロジェクトに使用されていた11m電波望遠鏡を、国立天文台と北海道大学の物理学専攻・地球惑星科学専攻をはじめとする宇宙惑星科学研究者との協力で、本学北方生物圏フィールド科学センター苫小牧研究林へ移設し、本格的な宇宙・惑星の電波観測を行う計画を進めています。この移転の実施には、北海道大学の教育研究設備充実費の援助をいただきました。

この11m電波望遠鏡は、3月にはすでに移設先での組み立てが完了し、13年度には調整を行い、試験観測を開始する予定です。

また、3月14日には、11m電波望遠鏡移設工事の着工を記念して、小平桂一前国立天文台台長と笹尾哲夫国立天文台教授をお招きし、本学学術交流会館大講堂で、以下のような講演会を行いました。

(<http://astro3.sci.hokudai.ac.jp>に内容をお知らせするページがあります)

講演者 小平桂一 前国立天文台台長

題目 「大望遠鏡『すばる』が探る宇宙～

21世紀の天文学と大学に期待される役割～」

講演者 笹尾哲夫 国立天文台教授 VERA 計画室室長

題目 「北大苫小牧電波望遠鏡と日本の宇宙観測～

日本の電波天文学の発展に向けて～」

講演会は100余名の学内外参加者を集めて成功し、NHKの夕方のニュースでも報道されました。

以下に、この11m電波望遠鏡の背景や実施状況などを紹介します。

人類の宇宙に対する科学的な関心は世界的にも日本国内でも非常に高いものがあります。日本では、研究施設の面でも、野辺山45m電波望遠鏡、すばる8m光学赤外望遠鏡、X線観測衛星「アスカ」などの世界的に見ても第一級の大規模研究施設が建設され、大型プロジェクトとして国際的にも注目される研究成果をあげています。宇宙電波の分野では、高精度広域精測干渉計(VERA)が現在建設中であり、大規模ミリ波干渉計(LMSA)計画が日米欧の国際協力のもとで進められています。LMSAは、サブミリ波で宇宙を観測するという、人類としては新しい波長域での観測であり、銀河形成や惑星系形成の観測に威力を発揮すると期待されています。

現在、大学にはこうした大型プロジェクトへ積極的に参加することが求められていると言えます。北海道大学では、宇宙惑星科学は理学研究科、工学研究科、低温科学研究所、地球環境科学研究科などで、惑星大気から星間塵、恒星の形成と進化、銀河・銀河団の形成と進化などを対象に、幅広く精力的に研究が進められています。しかし、観測的な施設を自前で持っていないため、観測関係の大学院学生の教育研究には国立天文台などの全国共同利用施設を使用することになり、観測装置を十分利用する機会に恵まれていません。この点で、11m電波望遠鏡の移設は北大における宇宙科学の観測的研究を大きく発展させる良い条件を与えると考えられます。

今回移設された11m電波望遠鏡は、鏡面精度が0.5mm以下と高く、アンモニア分子22GHzなどの興味ある星間分子などを観測することができます。この振動数には水メーザー源などもあり、星形成領域などの星間ガスの密度の高い領域での星間分子を観測することができます。また、超長基線電波干渉計(VLBI)を構成するのに必要な水素メーザー時計や125Mbit磁気テープ記録装置などを持っています。これを用いて、

(1) 移設望遠鏡単独で、星形成領域に豊富にあるアンモニア分子の銀河面における分布を初めて観測し、我々の銀河の大局的な星形成の様子を明らかにする。

(2) 国立天文台や通信総合研究所が組織する国内のVLBI観測網と結合して、180万分の1度の角度分解能で、地球回転の高精度測定や銀河中心の巨大ブラックホール(太陽の100万倍以上の質量)周辺のメーザー源の観測を行う。を予定しています。(1)の研究は本学の教官と大学院生が中心となってい、(2)の研究は国立天文通信総合研究所と協力して行います。

(1)の研究は、この観測が初めての大規模な観測であり、銀河の大局的な星形成に関する新しい知見を与えると期待しています。また、VLBIについては、北大に電波望遠鏡を移設することにより、日本のVLBI観測の角度分解能が3割向上し、現在計画されている国内超高速光通信網を利用することで、感度が従来の3倍になります。これによって観測精度が向上し、継続した観測によってメーザー源の機構の解明が進むと期待しています。

教育面では、理学研究科物理学専攻および地球惑星科学専攻さらに工学研究科量子物理学専攻、低温科学研究所に属する学部生や大学院生が学部実験あるいは修論や博士論文の研究で、宇宙電波の測定や解析を具体的に行い、あるいは、観測機器開発に関わることで最新の成果に触

れ、教育的にも大きな効果があるかと期待しています。

最後に、この電波望遠鏡の移転に際して、丹保北大総長、三本木前理学研究科長、徳永理学研究科長の御理解による多大な御協力があり、森前事務長をはじめとする理学研究科・理学部事務部の方々に大変お世話になりました。この場をお借りして感謝いたします。



動作確認中の11m電波望遠鏡。3月29日に正式に組み立てが完了したことを確認するために動作確認の作業中。

(物理学専攻 羽部朝男)

北海道大学大学院理学研究科業務功労者表彰を実施

中村キヨエ図書掛事務官及び諸井政弘附属臨海実験所技官の定年退官に伴い、本年3月30日研究科長室において北海道大学大学院理学研究科業務功労者表彰が実施され、研究科長から表彰状及び記念品が手渡されました。

この表彰は、本研究科において教育研究の補助的業務に従事する職員のうち、その功労が顕著で他の職員の規範となり、人目につかない領域にあって苦勞の割に報われることが少ない在職20年以上の職員等に対して行われています。



被表彰者と研究科長、事務長

大学院理学研究科技術部技術職員研修(第10回)を実施

大学院理学研究科技術部技術職員研修 第10回を平成13年1月9日(火)から11日(木)までの3日間、本研究科を会場に、職務に関する必要な知識等を広く修得させ、能力・資質の向上を図ることを目的として、実施されました。

本研修を受講した本研究科技術職員19名、薬学研究科技術職員1名、触媒化学研究センター技術職員1名及び実験生物センター技術職員1名の計22名が所定の課程を修了しました。

研究活動だより (19)

官職・氏名 助手・分島 亮

専攻名 化学専攻

学会等名 2000環太平洋化学国際会議
(PACIFICHEM2000)

開催期間 2000年12月14日(木)~19日(火)

開催地 アメリカ・ハワイ

開催場所 シェラトンワイキキホテル

発表テーマ名 希土類元素を含むパイロクロア型酸化物
 $R_2Ru_2O_7$ ($R = Sm, Eu$) の磁氣的挙動

研究発表の概要

2000環太平洋国際化学会議 (PACIFICHEM2000) は日本化学会、アメリカ化学会、カナダ化学会、オーストラリア化学会、ニュージーランド化学会が、4年に一度、協同で主催する大規模な国際会議である。全体でおよそ180の分科会があり、今回出席した「希土類化学の最近の発展」に関する分科会では口頭発表10件、ポスター発表45件が行われ、希土類元素を含む物質の基礎研究から機能性材料の開発等の応用研究まで、希土類元素に関する様々な研究について発表された。

今回、私達は「希土類元素を含むパイロクロア型酸化物 $R_2Ru_2O_7$ ($R = Sm, Eu$) の磁氣的挙動と題するポスター発表を行った。パイロクロア型酸化物 $A_2B_2O_7$ は A サイトイオンおよび B サイトイオンがともに正四面体の頂点にあり、それぞれがその正四面体の頂点を共有したネットワークを形成している。また、その電荷の組み合わせをみると $A^{3+}_2B^{4+}_2O_7$ 、 $A^{2+}_2B^{5+}_2O_7$ 等の単純な組み合わせに加えて、 $A^{3+}_2B^{3+}_1B^{13+}_2O_7$ 等の多様な組み合わせが可能であり、その組み合わせに対応して、A サイトは比較的イオン半径の大きいカルシウム、カドミウム、希土類元素等の陽イオンが占め、B サイトはイオン半径の小さいスズあるいは遷移金属等の陽イオンが占めることが知られている。

これらの物質群は、古くは触媒、ガスセンサ等の化学的に活性な化合物を中心に研究が行われてきたが、最近では、陽イオンの四面体ネットワークによる、幾何学的にフ

ラストレートした構造を有する磁性体という観点から実験・理論の両面で精力的に研究されている。理論的には、このような構造をもつ磁性体中で磁性イオン間に反強磁性的相互作用が働く場合、低温で長距離秩序を持たずにスピニングが凍結し、スピングラス様挙動を示すことが知られているが、実験的には、一部の化合物群について精力的に調べられているものの、まだ、多くの化合物の磁氣的性質については、十分に調べられているとは言い難く、未解明な点も多い。最近、私達の研究グループでは、新たなスピングラス様挙動を示す物質を探索する目的で、B サイトにのみ磁性イオンが占めるパイロクロア型ルテニウム酸化物 $R_2Ru_2O_7$ ($R = Y, Lu$) の磁氣的性質について調べ、80K 付近にスピングラス的な転移を示すことを見出した。表題の物質は非磁性の A サイトイオンを磁性イオンに置換することにより、 $R_2Ru_2O_7$ ($R = Y, Lu$) とは、異なった磁氣的性質を示すことが期待される。このような観点から $R_2Ru_2O_7$ ($R = Sm, Eu$) の磁化および比熱測定を行い、その磁氣的性質について調べた。

まず、 $R_2Ru_2O_7$ ($R = Sm, Eu$) の直流磁化率および残留磁化測定を行った。 $Sm_2Ru_2O_7$ および $Eu_2Ru_2O_7$ の直流磁化率、残留磁化は、いずれも、およそ 120K 以下で $R_2Ru_2O_7$ ($R = Y, Lu$) と同様のスピングラス様挙動を示した。つぎに、これらの化合物について比熱測定を行ったところ、120K 付近で通常のスピングラスでは見られない型の 2 次相転移を示した。このことは、120K 付近の異常は長距離秩序をもつ磁気転移であることを示唆している。さらに、比較のために測定した $R_2Ru_2O_7$ ($R = Y, Lu$) の比熱の結果も、同様に、80K 付近で型の異常を示した。これらの結果に加えて、他の希土類元素を含む化合物の比熱測定の結果も考慮に入れると、この型の異常は希土類元素のイオン半径の増加とともに単調増加しており、希土類元素の 4 電子数には依存していないため、ルテニウムイオンの磁性のみを起源とする磁気転移であると考えるのが妥当である。したがって、転移温度の上昇は、希土類元素のイオン半径の増加により、3 次元ネットワークを形成している Ru - O - Ru 結合角が増加し、より 180° に近づくことにより、ルテニウムイオン間に働く反強磁性的

な超交換相互作用が強まることによるものと考えられる。しかし、これらの化合物の比熱による長距離秩序の示唆は、直流磁化率におけるスピングラス様挙動と矛盾する。さらに、交流磁化率測定を行ったところ、転移温度の周波数依存性は見られず、磁気転移が通常のスピングラスとは異なることが分かった。

以上の結果から、 $R_2Ru_2O_7$ ($R = Sm, Eu$) で見られた反強磁性的磁気秩序は、広範囲なドメインを形成しているが、その長距離秩序性は完全なものではないために、スピングラス的な性質も持ち合わせており、直流磁化率と比熱、交流磁化率の結果における一見の相違は磁場に対する応答時間が非常に長いために生じたものと考えている。しかし、今回の測定手法だけでは、磁場に対する応答時間やドメインの大きさまでは見積もることはできないため、 $R_2Ru_2O_7$ のスピングラス様挙動について明らかにするため

には更に詳しい研究を要する。最後に、今回の研究では、希土類元素として、サマリウムおよびユーロピウムイオンを用いたが、これらの化合物で見出された磁気秩序は本質的に、希土類元素として、イットリウムおよびルテチウムイオンを用いた化合物と同様、ルテニウムイオンの磁性によるものであり、希土類元素はイオン半径差による幾何学的な要因としてのみ、ルテニウムイオン間の交換相互作用へ関与していた。

当研究グループで進めている希土類元素とルテニウムとともに含む秩序化ペロプスカイトでは、希土類元素およびルテニウムが低温で同時に磁気秩序を示しており、これらの化合物と異なる様相を呈しているのは大変興味深いところである。

(この発表は、株式会社岩崎からの研究助成による)

研究活動だより (20)

官職・氏名 助手・阿部 正明

専攻名 化学専攻

学会等名 2000 環太平洋化学国際会議
(PACIFICHEM2000)

開催期間 2000年12月14日(木)~19日(火)

開催地 アメリカ・ハワイ

開催場所 シェラトンワイキキホテル

発表テーマ名 ルテニウム二核および三核錯体の金電極上自己組織化単分子膜の電気化学的挙動

研究発表の概要

本国際会議で筆者は、“Electrochemistry of Self-Assembled Monolayers of Dinuclear and Trinuclear Ruthenium Complexes on Gold”(阿部、佐藤、猪股、近藤、叶、魚崎、佐々木)と題するポスター発表を“Electrochemical Surface Science at Molecular/Atomic Resolution”のシンポジウムにて行なった。近年、機能性電極界面の構築を目指した研究が盛んであり、その中でも

含イオウ化合物を金電極、金基盤表面へ自己組織化させる手法は、膜構造の高い安定性や配向性などの点から極めて有効である。本研究ではこの手法に着目し、我々がこれまで合成し、その電気化学的性質をはじめとする諸物性に関するデータの揃う金属クラスター分子を金電極表面へ集積化し、特に界面酸化還元挙動を解明することを目的とした。ここでは特に多彩なレドックス挙動を示すルテニウム三核、二核錯体と金属酵素活性中心に存在し酸素分子の運搬・活性化の役割を担う鉄二核錯体を対象とした。

本研究では、最初に金属クラスター骨格ヘジスルフィド配位子を導入した化合物を合成し、それらを金電極表面へ配向させるアプローチを取った。ルテニウム三核クラスター末端にピリジン配位子を有するルテニウム三核錯体の金電極自己組織化膜は、中性水溶液中、固定ルテニウムクラスターに由来する1電子酸化還元波を示した。その酸化還元電位や波形には支持電解質依存性が見られた。ボルタモグラムの電流量から判断すると、ルテニウムクラスターが単分子層として金電極表面へ密に凝集した状態を取ることが確認された。またイミダゾールが2つ配位したルテニウム三核クラスターを用いた自己組織化膜の場合、その酸化

還元電位に水溶液のpH依存性が見られた。興味深いことに、このプロトン濃度依存酸化還元挙動は、均一溶液内で観測される挙動とは異なっていた。この事実は電極界面への固定化が錯体分子の性質をチューニングしていることを示しており大変興味深い。この点を明らかとするためには今後さらに検討を要する。また、クラスター末端配位子としてカルボニルを持つルテニウム三核クラスター自己組織化膜についても検討した。このクラスターは最初、混合原子価状態（3つのルテニウムの酸化数はそれぞれ+2、+3、+3）を取るのに対し、化学的・電気化学的な1電子酸化（このとき全てのルテニウムは+3）もしくは光照射を行うことによりカルボニル配位子が脱離することが知られる。自己組織化単分子膜においても同様の反応が観測され、電解酸化の手法を用いた場合にはカルボニル脱離反応の半減期は約100秒と見積もられた。カルボニル配位子が脱離し替わって水分子が配位したルテニウムサイトには様々な配位子や配位性官能基を持つ金属錯体の導入が可能と考えられる。このアイデアを確認すべく4、4'-ビピリジンおよびカルボニル配位子を持つルテニウムクラスターの錯形成反応を試みたところ、実際にクラスター分子が単分子膜表面へ導入されることが確認された。さらに脱カルボニル/クラスター導入反応を繰り返すことにより、膜界面での逐次的な一次元オリゴマー成長が示唆されるデータも得られた。すなわちこの手法により、長さの制御されたレドックス活性クラスターの分子ワイヤーが電極界面上に形成されることとなり、基礎および応用的側面から極めて興味深い結果と思われる。今後定量性を含めた詳細な研究が必要である。

一方、オキソ架橋二核ルテニウム錯体を自己組織化した単分子膜については、電位 - pH図（プルベダイアグラム）

を作成することにより膜界面におけるプロトン共役電子移動反応に関する詳細な知見を得た。ここでは、錯体のみから成る単分子膜に加え、種々の長さを持つアルカンチオールとの混合型単分子膜も対象とした結果、レドックス活性点周りの化学的環境を微細にコントロールした影響を詳細に観察することができた。錯体のみから構成される単分子層は電気化学測定の中で何らかの分解過程により錯体部分が電極表面から次第に剥離するのに対し、アルカンチオールとの混合膜では安定性は格段に向上し種々の条件下での測定が可能となった。また、オキソ架橋鉄二核錯体の自己組織化膜についてもプルベダイアグラムを作成したところ、2つの鉄中心を架橋するオキソ配位子のpKa値は、鉄価 - 価混合原子価状態で3以下、一方、鉄価 - 価の状態では10以上と見積もられた。この値は前述のルテニウム二核錯体や生体酵素について報告される値とも整合性があり、この自己組織化系が生体内電子移動反応の詳細に迫る好都合なモデル系であることを示している。

以上述べた様に、本研究では、多電子移動反応、光化学、さらに生体酵素反応などの観点から大変興味深い多核金属錯体を金電極表面へ自己組織化し、その基礎的な界面酸化還元反応について知見を得ることができた。特にこれまで均一溶液系では溶解度や安定性の点から測定が困難であった水溶液中の酸化還元挙動が観測可能となった点や、クラスターユニットを単位とする分子ワイヤー構築の可能性が出てきたことは特筆されると思われる。今後、上に述べた合成手法をさらに発展させ、機能性金属クラスターでなければ発現し得ないユニークな界面構造、反応、機能を創出したいと考えている。

（この発表は、株式会社岩崎からの研究助成による）

海外からの来訪者

期間：平成13年1月1日～3月31日

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的
(受入れ専攻等名：数学専攻)		
1. 7～1. 14	フランス・パリ第6大学・主任研究員・Andre Yves	講演「Gal(Q/Q), rigid geometry, and monodromy of p-adic differential equations , , 」
1. 8～1. 16	ドイツ・ドレスデン大学・教授・Bernhard Ganter	講演「Surveys on formal concept analysis」
2. 4～2. 14	フランス・リュミニニ数学研究所・教授・Jean-Paul Brasselet	特異多様体の特性類の研究に関する研究打合せ
2. 5～2. 23	メキシコ・メキシコ国立大学・教授・Jose Seade	〃
2. 4～2. 18	イギリス・サセックス大学・教授・C.M.Elliott	特異形状を生む拡散効果の非線形解析に関する研究打合せ
2. 8～2. 13	フランス・パリ南大学・教授・D.Hilhorst	〃
(受入れ専攻等名：物理学専攻)		
1. 28～1. 31	ウクライナ・ボゴリューボフ理論物理研究所・シニアサイエンティスト・Sergei Kruchinin	「高温超伝導体における擬ギャップとT _c でのボーズ凝縮的エントロピー異常」に関するレビュー
(受入れ専攻等名：化学専攻)		
1. 25～1. 30	韓国・東国大学・教授・In-Hyeong Yeo	表敬訪問
2. 2～2. 2	ドイツ・ミュンヘン工科大学・教授・P.Feulner	〃
2. 5～2. 7	韓国・高麗大学・準教授・李 致雨	〃
2. 5～2. 6	トルコ・イスタンブール工科大学・教授・Ozer Bekaroglu	講演「Phthalocyanines Containing Macrocycles」
2. 12～2. 13	アメリカ・ユタ大学・教授・Peter J. Stang	講演「Nanoscale Molecular Architecture: Design and Self-assembly of Metallacyclic Polygons and Polyhedra via Coordination」
3. 2～3. 3	アメリカ・アイオワ州立大学・助教授・Mike Schmidt	講演「Bonding in an isoelectronic atrane series」
(受入れ専攻等名：生物科学専攻)		
1. 15～1. 20	ニュージーランド・国立水大気研究所・主任研究員・Dennis Gordon	Eurystomella属コケムシ類に関する共同研究
(受入れ専攻等名：地球惑星科学専攻)		
2. 11～2. 19	ロシア・ロシア科学アカデミーシベリア支部石油地質研究所・副所長・N.V.Sennikov	学位論文審査およびアルタイ山地の古生層の生層序、地質構造研究の諸問題、 Gondwana シンポジウム投稿論文に関する研究打合せ
2. 26～3. 31	ネパール・トリブバン大学・講師・Gautam Pitambar	ヒマラヤの上昇テクトニクスと気候変動に関する研究打合せ
3. 12～3. 30	ロシア・ロシア科学アカデミーシベリア支部地殻研究所・主任研究員・D.P.Gladkchoub	シベリア・クラトン南西縁の火成岩・変成岩類の同位体岩石学的研究及び夏のイルクーツクでの国際集会の準備打合せ

学会賞等の受賞

化学専攻 藤原憲秀助教授は、「海産環状エーテル系天然物の合成化学的展開」により、平成13年2月15日、(社)有機合成化学協会から有機合成化学奨励賞を受賞されました。

物理学専攻 博士後期課程2年新田高洋さんは、「Spatial Distribution of Local Elastic Modulus of Agar Gel Obtained by AFM」により、平成12年12月7日、日本MRSから奨励賞を受賞されました。

学位授与

平成13年3月23日学位授与者(68名)
(課程博士)

伊 澤 毅 (数学専攻)

On applications of localization of characteristic classes. (主査: 諏訪立雄教授)

上 田 肇 一 (数学専攻)

A Manner of splitting in dissipative systems. (主査: 西浦康政教授)

笠 原 雪 夫 (数学専攻)

The asymptotic behavior for the prediction error and partial autocorrelation function of a long-memory stationary process. (主査: 津田一郎教授)

小 杉 聡 史 (数学専攻)

Semilinear elliptic equations on thin network-shaped domains. (主査: 神保秀一教授)

横 井 研 介 (数学専攻)

Structure formation in circular hydraulic jumps: numerical studies of largely deformed free-surface flows. (主査: 西浦康政教授)

大 塚 直 彦 (物理学専攻)

Hadronic degrees of freedom in relativistic heavy-ion collisions. (主査: 加藤幾芳教授)

岡 阿佐子 (物理学専攻)

Microwave dielectric study on phase transition of Rochelle salt ammonium Rochelle salt mixed crystal. (主査: 永正晴教授)

岡 本 崇 (物理学専攻)

Theoretical study on morphological and color evolution of cluster galaxies in CDM uni-

verse. (主査: 藤本正行教授)

河 合 紀 子 (物理学専攻)

Experimental study of optical properties of two-dimensional AlGaAs-based photonic crystal slabs and control of the radiation field. (主査: 井上久遠教授)

佐々木 徹 (物理学専攻)

N=4 supersymmetric Yang-Mills theory and Vafa-Witten theory (主査: 河本 昇教授)

佐々木 志 剛 (物理学専攻)

Study of aging phenomena in the generalized random energy model. (主査: 永正晴教授)

羽 生 千亜紀 (物理学専攻)

The nonextensive approach to the differential energy distribution of the universal density profile of dark halo. (主査: 藤本正行教授)

早 坂 圭 司 (物理学専攻)

String theory with a constant B field and space-time non-commutative Yang-Mills theory. (主査: 石川健三教授)

平 田 雄 一 (物理学専攻)

Fragment formation in light-ion induced reactions. (主査: 加藤幾芳教授)

四 辻 健 治 (物理学専攻)

Monte Carlo study of two-dimensional quantum gravity coupled to weighted percolation cluster models. (主査: 河本 昇教授)

粟 倉 大 輔 (化学専攻)

Studies toward total synthesis of pectenotoxin 2. (主査: 村井章夫教授)

市 川 隼 人 (化学専攻)

Development of new aluminum catalysis for selective transformation of oxygen-containing functional groups. (主査: 辻 康之教授)

金 川 基 (化学専攻)

Tyrosine phosphorylation of the H/K-ATPase in gastric parietal cells. (主査: 谷口和彌教授)

小 西 薫 (化学専攻)

平滑筋ミオシンのリン酸化依存調節機構に含まれる分子内相互作用部位の解明. (主査: 矢澤道生教授)

白 土 治 己 (化学専攻)

1型プロテインホスファターゼに対する新規阻害タンパク質 Inhibitor-4 の構造と機能に関する研究. (主

- 查：菊池九二三教授)
橋 淳 (化学専攻)
Development and application of two-centered organoaluminum reagent in organic synthesis. (主査：宮下正昭教授)
- 田 沼 延 公 (化学専攻)
チロシンホスファターゼPTP Cによるサイトカインシグナルの選択的抑制。(主査：菊池九二三教授)
- 手 塚 慶太郎 (化学専攻)
Studies on the crystal structures and magnetic properties of perovskite-related lanthanide oxides. (主査：日夏幸雄教授)
- 西 田 純 一 (化学専攻)
Hexaarylethane derivatives and related compounds: Dynamic redox behavior and electrochromism. (主査：辻 孝教授)
- 沼 田 卓 也 (化学専攻)
平滑筋ミオシン軽鎖キナーゼのC末端ドメインの機能に関する研究。(主査：矢澤道生教授)
- 早 川 裕 之 (化学専攻)
Synthetic studies on biologically active natural products based on the stereospecific construction methodologies for acyclic organic molecules. (主査：宮下正昭教授)
- 藤 原 哲 晶 (化学専攻)
Study of molybdenum porphyrin complexes: dioxygen complexes and anthracene-bridged dimmers. (主査：佐々木陽一教授)
- 古 誠 也 (化学専攻)
Infrared spectroscopic study of water- hydrocarbon mixtures at high temperatures and pressures. (主査：井川駿一教授)
- 法 花 泰 利 (化学専攻)
New reactivity and selectivity induced by designer aluminum and organosilicon reagents. (主査：宮下正昭教授)
- 松 田 真 生 (化学専攻)
Molecular conductors based on axially substituted phthalocyanine with local magnetic moment of Fe for a novel low-dimensional d -System. (主査：稲辺 保教授)
- 丸 山 則 彦 (化学専攻)
Self-organized regular patterns of polymer aggregates in Mesoscopic scale. (主査：下村政嗣教授)
- 森 末 光 彦 (化学専攻)
Organization of two-dimensional chromophore aggregates in nucleobase architectures. (主査：下村政嗣教授)
- 吉 田 直 人 (化学専攻)
Studies on the intracellular micro- environments using microscopic optical methods. (主査：田村 守教授)
- 近 藤 朋 子 (生物科学専攻)
Molecular and cellular biological analyses of the formation of maturation-promoting factor in zebrafish oocytes. (主査：山下正兼教授)
- 彦 坂 亮 (生物科学専攻)
Anatomical and electrotonic structures of local spiking and nonspiking interneurons by three-dimensional morphometry in crayfish. (主査：高畑雅一教授)
- 阿 部 光 知 (生物科学専攻)
Molecular and genetic analyses of L1 layer-specific genes in *Arabidopsis thaliana*. (主査：米田好文教授)
- 上 井 進 也 (生物科学専攻)
A taxonomic study of the Japanese Elachistaceae (Phaeophyceae). (主査：増田道夫教授)
- 柁 原 宏 (生物科学専攻)
Taxonomic Studies on Monostilifera (Nemertea: Enopla: Hoplonemertea). (主査：馬渡駿介教授)
- 北 橋 隆 史 (生物科学専攻)
Roles of gonadotropin-releasing hormone in homing migration and sexual maturation of pre-spawning salmonids. (主査：浦野明央教授)
- 木 村 敦 (生物科学専攻)
Studies on the physiological roles of prolyl oligopeptidase in mammals. (主査：高橋孝行教授)
- 鈴 木 誠 治 (生物科学専攻)
Competitive interactions of burying beetles (*Nicrophorus*: Silphidae: Coleoptera) in carrion consuming communities. (主査：片倉晴雄

- 教授)
- 鈴木 優 志 (生物科学専攻)
Isolation and characterization of two spatially regulated genes in *Arabidopsis thaliana*; proliferative region-specific gene, *AtRBP1*, and xylem-predominant gene, *AtXyn1*. (主査: 米田好文教授)
- 長 里 千香子 (生物科学専攻)
Studies on the behavior and function of centrioles and centrosomes for the spindle formation in the fertilization of brown algae. (主査: 市村輝宜教授)
- 比 嘉 幹 彦 (生物科学専攻)
The gonadotropin-releasing hormone and *fushi tarazu* factor 1: their roles in the brain-pituitary axis of pre-spawning salmon. (主査: 浦野明央教授)
- 王 宏 偉 (生物科学専攻)
A molecular phylogenetic study of the family Halymeniaceae (Rhodophyta). (主査: 増田道夫教授)
- 相 沢 智 康 (生物科学専攻)
Studies of three-dimensional structure and activity of an insect growth factor, growth-blocking peptide. (主査: 新田勝利教授)
- 熊 谷 大 樹 (生物科学専攻)
Studies on the efficient carbohydrate synthesis -selective protection and transformation of sugars and their applications- (主査: 西村紳一郎教授)
- 小 柴 琢 己 (生物科学専攻)
Structural and thermodynamic studies of a Ca²⁺-binding lysozyme: biophysical characterization of canine milk lysozyme. (主査: 新田勝利教授)
- 萩 原 伸 哉 (生物科学専攻)
Studies on circadian regulation of cell division cycle in *Euglena*. (主査: 山岸皓彦教授)
- 吉 田 均 (生物科学専攻)
NMR studies of tandem repeats with high flexibility in prion proteins. (主査: 中田允夫教授)
- 宮 坂 瑞 穂 (地球惑星科学専攻)
Petrological study of Miyake-Jima Volcano, Izu-Islands -evolution of the magmatic system since 1469A.D.- (主査: 宇井忠英教授)
- 本 充 宏 (地球惑星科学専攻)
Volcanological study of 1640 eruption of Hokkaido Komagatake volcano, Northern Japan -Special reference to processes of sector collapse-. (主査: 宇井忠英教授)
- AHMAD Mirza Naseer (地球惑星科学専攻)
Paleomagnetic study of igneous rocks of Kohistan island arc, northern Pakistan: Paleoposition and crustal rotations of Kohistan island arc. (主査: 岡田尚武教授)
- 植 田 勇 人 (地球惑星科学専攻)
Cretaceous forearc tectonics in central Hokkaido: With special reference to accretion and exhumation processes of greenstones. (主査: 岡田尚武教授)
- OBUT Olga (地球惑星科学専攻)
Microplaeontological study of Lower Paleozoic siliceous rocks in the Altai Mountains area - with special reference to the evolution of the Timofeevna Paleo- Asian Ocean. (主査: 渡邊暉夫教授)
- 千 貝 健 (地球惑星科学専攻)
不均質プレソーラー粒子の生成条件. (主査: 小笹隆司教授)
- 永 田 秀 尚 (地球惑星科学専攻)
新第三系ハイアロクラスタイトからなる海食崖における岩盤崩壊の地質地形要因、機構と崩壊過程. (主査: 岡田尚武教授)
- 齋 藤 秀 樹 (地球惑星科学専攻)
Seismic travelttime tomography for shallow subsurface explorations. (主査: 蓬田 清教授)
- 齋 藤 松 彦 (地球惑星科学専攻)
Bouguer anomaly and 3-D crustal modeling of the whole Peruvian Andes using the completely revised gravity data. (主査: 笠原 稔教授)
- 篠 田 太 郎 (地球惑星科学専攻)
Studies on generation of deep convection over eastern China during the summer monsoon. (主査: 林 祥介教授)

森 川 信 之 (地球惑星科学専攻)
巨大スラブ内地震の震源特性に関する研究。(主査：
西田泰典教授)

(論文博士)

木 藤 理 恵 (数学専攻)
Hilbert schemes and cyclic quotient surface
singularities。(主査：中村 郁教授)

犬 飼 恵 一 (生物科学専攻)
粘土等層状無機化合物を疎水化することによるLB膜
作成法の開発とその応用に関する研究。(主査：山岸
皓彦教授)

SZABÓ Dénes (生物科学専攻)
Studies on magnetic- and polyelectrolyte
gels。(主査：長田義仁教授)

宮 本 啓 一 (生物科学専攻)
Study on mechanism of cryogelation。(主査：
西村紳一郎教授)

伊 藤 俊 彦 (地球惑星科学専攻)
Natural calcium carbonate minerals formed
under the low temperatures and their mineral-
ogical evolution。(主査：渡邊暉夫教授)

廣 瀬 亘 (地球惑星科学専攻)
Spatial and Temporal development of
Neogene volcanism in Central-Eastern
Hokkaido-Beginning and evolution of arc vol-
canism at Southwest Kuril arc and Northeast
Japan arc-。(主査：宇井忠英教授)

渡 辺 真 人 (地球惑星科学専攻)
日本周辺の新第三系中の海底ハイエイタスとコンデン
スセクションの生成時期と成因に関する研究。(主
査：小泉 格教授)

新任教官紹介

さわ むら まさ や
澤 村 正 也 (化学専攻物性解析化学講座教授)
(平成13年1月16日転入)



最終学歴：平成元年3月京都大学大
学院工学研究科合成化学専攻博士後
期課程研究指導認定退学、学位：工
学博士、略歴：昭和63年4月日本
学術振興会特別研究員、平成元年4
月京都大学工学部助手、平成7年3

月東京工業大学理学部助手、平成7年6月東京大学大
学院理学系研究科助手、平成8年2月同講師、平成9年8
月同助教授、専門分野：有機金属化学

はら けん じ
原 賢 二 (化学専攻物性解析化学講座助手)
(平成13年2月16日採用)



最終学歴：平成12年3月東京大学
大学院理学系研究科化学専攻修士課
程修了、略歴：平成12年4月日本
学術振興会特別研究員、専門分野：
有機金属化学

なか むら けん
中 村 玄 (数学専攻数理解析学講座教授)
(平成13年4月1日転入)



最終学歴：昭和52年3月東京都立
大学大学院理学研究科数学専攻博士
課程単位修得退学、学位：理学博
士、略歴：昭和52年4月城西大学
理学部助手、昭和53年4月同講師、
昭和55年4月同助教授、平成3年
4月同教授、平成6年4月東京理科大学理学部教授、平成
9年4月群馬大学工学部教授、専門分野：偏微分方程式

まつ した だい すけ
松 下 大 介 (数学専攻代数構造学講座助教授)
(平成13年4月1日採用)



最終学歴：平成9年3月東京大学大
学院数理科学研究科数理科学専攻博
士課程修了、学位：博士(理学)
略歴：平成9年4月京都大学数理解
析研究所長期研究員、平成9年10
月京都大学数理解析研究所教務補佐
員、平成10年4月京都大学数理解析研究所COE 非常勤
研究員、平成11年4月日本学術振興会特別研究員、専門
分野：代数幾何学(特にシンプレクティック・ケーラー多
様体)

つば い やす ゆき
坪 井 泰 之 (化学専攻機能分子化学講座助教授)
(平成13年4月1日転入)



最終学歴：平成7年3月大阪大学大学院工学研究科応用物理学専攻博士後期課程修了、学位：博士(工学)
略歴：平成7年4月富士写真フィルム株式会社富士宮研究所研究員、平成8年3月京都工芸繊維大学繊維学部助手、平成11年3月同講師、専門分野：光化学、物理化学

やま くち じゅん じ
山 口 淳 二 (生物科学専攻形態機能学講座教授)
(平成13年4月1日転入)



最終学歴：昭和61年3月名古屋大学大学院農学研究科博士後期課程修了、学位：農学博士、略歴：昭和60年10月日本学術振興会特別研究員、昭和61年11月同海外特別研究員、昭和62年11月名古屋大学農学部助手、平成7年2月名古屋大学生物分子応答研究センター助教授、専門分野：植物生理学、生化学

あお やま ひろし
青 山 裕 (附属地震火山研究観測センター(火山活動研究分野)助手)
(平成13年4月1日採用)



最終学歴：平成13年3月東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻博士課程修了、学位：博士(理学)、略歴：平成11年12月気象大学校非常勤助手、専門分野：火山学

訃報

名誉教授 永井珠夫氏(享年72歳)

名誉教授(元理学部教授)永井珠夫氏は、平成13年3月21日(水)午後4時35分逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

人事異動

平成13年4月1日付けをもって本学部附属臨海実験所及び附属海藻研究施設が本学北方生物圏フィールド科学セ

ンター(新設)に、本学部附属動物染色体研究施設が本学先端科学技術共同研究センターにそれぞれ廃止転換されました。

なお、事務部においては、同日付けで人事掛が廃止されるとともに、技術職員を除く全学教育関係事務系職員が学務部教務課全学教育支援室に統合されました。

平成13年1月14日付け発令

(休職更新)

庶務掛長

岡村 貢

休職期間は平成13年7月13日まで

(併任)

庶務掛長

併任期間は平成13年3月31日まで

専門員

浅野 志のぶ

平成13年1月16日付け発令

(併任解除)

化学専攻物性解析化学講座教授

京都大学大学院理学研究科教授

丸岡 啓二

(転入)

化学専攻物性解析化学講座教授

澤村 正也

東京大学大学院理学系研究科助教授から

平成13年2月16日付け発令

(採用)

化学専攻物性解析化学講座助手

原 賢二

平成13年3月1日付け発令

(昇任)

化学専攻生命分子化学講座助教授

橋 正行

生物科学専攻生体高分子設計学講座助手から

平成13年3月30日付け発令

(任期満了)

生物科学専攻リサーチ・アソシエイト

倉田 哲也

生物科学専攻リサーチ・アソシエイト

高橋 芳恵

庶務掛事務補佐員

出口 麻紀

地球惑星科学専攻第二事務室事務補佐員

柴田 潤子

附属地震火山研究観測センター事務補佐員

畠山 恵美子

物理学科事務室事務補佐員

山田 満子

物理学科実験室技術補佐員	道見宗光	大学院地球環境科学研究科教授	塩谷雅人
地球科学科事務室事務補佐員	黒川文子	理学部助教授	
		大学院地球環境科学研究科助教授	長谷川四郎
平成13年3月31日付け発令		理学部助教授	
(停年(定年)退職)		大学院地球環境科学研究科助教授	覺知豊次
数学専攻数理解析学講座教授	上見練太郎	理学部助教授	
地球惑星科学専攻地球惑星進化科学講座教授		大学院地球環境科学研究科助教授	豊田和弘
	小泉格	理学部助手	
生物科学専攻形態機能学講座教授	福永典之	大学院地球環境科学研究科助手	津江広人
事務長	森知二		
教務掛主任	藤本清	(転出)	
図書掛事務官	中村キヨエ	数学専攻代数構造学講座助教授	田口雄一郎
附属臨海実験所技官	諸井政弘	九州大学大学院数理学研究院助教授へ	
		化学専攻機能分子化学講座助手	松平和之
(辞職)		九州工業大学工学部助手へ	
生物科学専攻生体高分子解析学講座助手	谷口昌宏	生物科学専攻行動知能学講座教授	浦野明央
物理学専攻事務室主任	栗原容子	北方生物圏フィールド科学センター教授へ	
		附属臨海実験所教授	向井宏
(任期満了)		北方生物圏フィールド科学センター教授へ	
庶務掛事務補助員	冬野裕香子	附属海藻研究施設教授	市村輝宜
数学専攻図書室事務補助員	佐藤美幸	北方生物圏フィールド科学センター教授へ	
化学専攻事務室事務補助員	中川原希縫	附属動物染色体研究施設教授	松田洋一
生物科学科実験室技術補助員	倉田結	先端科学技術共同研究センター教授へ	
附属地震火山研究観測センター事務補助員	津久井成美	附属海藻研究施設助教授	本村泰三
附属地震火山研究観測センター技術補佐員(研究支援推進員)	清野政明	北方生物圏フィールド科学センター教授へ	
附属海藻研究施設講師(研究機関研究員)	有賀博文	附属臨海実験所助教授	佐野清
附属動物染色体研究施設講師(研究機関研究員)		北方生物圏フィールド科学センター助教授へ	
	磯部拓	附属動物染色体研究施設助教授	阿部周一
附属動物染色体研究施設技術補佐員(研究支援推進員)		先端科学技術共同研究センター助教授へ	
	石橋靖幸	附属臨海実験所助手	中村浩之
		北方生物圏フィールド科学センター助手へ	
平成13年4月1日付け発令		附属海藻研究施設助手	四ツ倉典滋
(併任終了)		北方生物圏フィールド科学センター助手へ	
附属臨海実験所長		附属動物染色体研究施設助手	増田隆一
附属臨海実験所教授	向井宏	先端科学技術共同研究センター助教授へ	
附属海藻研究施設長		附属海藻研究施設教務職員	傳法隆
附属海藻研究施設教授	市村輝宜	北方生物圏フィールド科学センター教務職員へ	
附属動物染色体研究施設長		附属動物染色体研究施設教務職員	梅原千鶴子
附属動物染色体研究施設教授	松田洋一	先端科学技術共同研究センター助手へ	
		人事掛長	堀田文雄
		薬学研究科・薬学部庶務掛長へ	
(併任解除)		会計掛長	佐藤誠
理学部教授		医学部附属病院管理課専門員へ	

臨海実験所事務掛長	山本正幸	生物科学専攻形態機能学講座教授	山口淳二
経理部第二契約課第二契約掛長へ		名古屋大学生物分子応答研究センター助教授から	
専門職員	今田純一	化学専攻機能分子化学講座助教授	坪井泰之
施設部企画課工事契約掛長へ		京都工芸繊維大学繊維学部講師から	
人事掛主任	佐々木尊	事務長	佐々木重之
総務部企画室付主任へ		法学研究科・法学部事務長から	
臨海実験所事務掛主任	大橋良雄	庶務掛長	藤田君男
医学部附属病院医事課付主任へ		医学部附属病院総務課庶務掛長から	
地球惑星科学専攻第一事務室主任	長谷川道子	会計掛長	佐々木史生
工学研究科・工学部総務課情報エレクトロニクス系		経理部第一契約課専門職員から	
専攻事務室主任へ		専門職員（人事担当）	浅野賢二
化学科事務室主任	山正子	釧路工業高等専門学校庶務課人事係長から	
学務部教務課全学教育支援室主任へ		専門職員（外部資金担当）	北口修一
生物科学科事務室主任	友田雅子	国際広報メディア研究科・言語文化部総務掛長から	
学務部教務課全学教育支援室主任へ		専門職員（総合博物館担当）	横山榮紀
庶務掛事務官	泉澤成実	学務部入試課専門職員から	
施設部企画課総務掛事務官へ		会計掛主任	中谷慎志
庶務掛事務官（文化庁併任中）	留丈士	経理部第二契約課付主任から	
文化庁文化部宗務課宗教法人室事務官へ		庶務掛事務官	小倉健二
会計掛事務官	王生晶子	医学部附属病院総務課職員掛事務官から	
経理部第二契約課第三契約掛事務官へ		会計掛事務官	坂口周之
会計掛事務官	今田有治	文学研究科・文学部会計掛事務官から	
経理部主計課監査掛事務官へ		図書掛事務官	武田靖恵
附属海藻研究施設事務官	對馬秀俊	附属図書館情報サービス課相互利用掛事務官から	
室蘭工業大会計課用度係事務官へ		物理学専攻事務室事務官	押田亜希
生物科学専攻事務室事務官	佐藤優子	歯学研究科・歯学部口腔医学専攻口腔病態学講座事務官から	
歯学研究科・歯学部口腔医学専攻口腔健康科学講座		生物科学専攻事務室事務官	神野さおり
事務官へ		低温科学研究所第一研究協力室事務官から	
地球惑星科学専攻第二事務室事務官	齋藤理智子		
歯学研究科・歯学部口腔医学専攻口腔病態学講座事務官へ		（昇任）	
附属臨海実験所技官	濱野章一	地球惑星科学専攻地球惑星進化科学講座教授	
北方生物圏フィールド科学センター技官へ			鈴木行
数学科事務室事務補助員	額田淑枝	同講座助教授から	
学務部教務課全学教育支援室事務補助員へ		地球惑星科学専攻地球惑星流体科学講座助教授	
化学科実験室技術補助員	小笠原綾子		倉本圭
学務部教務課全学教育支援室技術補助員へ		同講座助手から	
化学科実験室技術補助員	綿貫周	附属地震火山研究観測センター（火山活動研究分野）助教授	
学務部教務課全学教育支援室技術補助員へ			大島弘光
（転入）		地球惑星科学専攻地球惑星物理科学講座助手から	
数学専攻数理解析学講座教授	中村玄	物理学専攻量子物理学講座講師	松永悟明
群馬大学工学部教授から		同専攻電子物性物理学講座助手から	

(命免)		理学部教授	
技術官	菅野孝照	電子科学研究所教授	田村守
技術官補から		理学部教授	
		遺伝子病制御研究所教授	菊地九二三
(採用)		理学部教授	
数学専攻代数構造学講座助教授	松下大介	遺伝子病制御研究所教授	畠山昌則
附属地震火山研究観測センター(火山活動研究分野)助手	青山裕	理学部教授	
		触媒科学研究センター教授	市川勝
化学専攻事務室事務補佐員	中川原希縫	理学部教授	
地球惑星科学専攻第二事務室事務補佐員	廣中はるか	触媒科学研究センター教授	辻康之
庶務掛事務補助員	須藤真弓	理学部教授	
会計掛事務補助員	石川恵里子	先端科学技術共同研究センター教授	松田洋一
数学専攻図書室事務補助員	土原珠紀	理学部教授	
附属地震火山研究観測センター技術補佐員(研究支援推進員)	檜皮久義	総合博物館教授	松枝大治
		理学部教授	
		北方生物圏フィールド科学センター教授	向井宏
(雇用契約)		理学部教授	
附属地震火山研究観測センター		北方生物圏フィールド科学センター教授	市村輝宜
(共通(客員)分野)外国人研究員(客員教授)		理学部教授	
雇用期間は平成13年7月31日まで		北方生物圏フィールド科学センター教授	本村泰三
DEMETRESCU Crisan		理学部助教授	
		大学院地球環境科学研究科助教授	山本正伸
(併任)		理学部助教授	
数学科長		大学院地球環境科学研究科助教授	野水基義
任期は平成14年3月31日まで		理学部助教授	
数学専攻空間構造学講座教授	林実樹	大学院地球環境科学研究科助教授	小西克明
物理学科長		理学部助教授	
任期は平成14年3月31日まで		大学院地球環境科学研究科助教授	沼口敦
物理学専攻量子物理学講座教授	河本昇	理学部助教授	
化学科長		総合博物館助教授	箕浦名知男
任期は平成14年3月31日まで		理学部助教授	
化学専攻分子変換化学講座教授	宮下正昭	先端科学技術共同研究センター助教授	阿部周一
生物科学科長		理学部助手	
任期は平成14年3月31日まで		大学院地球環境科学研究科助手	吉永裕介
生物科学専攻生体情報分子学講座教授	橋孝行	理学部助手	
地球科学科長		先端科学技術共同研究センター助教授	増田隆一
任期は平成14年3月31日まで		理学部助手	
地球惑星科学専攻地球惑星物質圏科学講座教授		北方生物圏フィールド科学センター助手	中村浩之
	藤野清志	理学部助手	
理学部教授		北方生物圏フィールド科学センター助手	四ツ倉典滋
低温科学研究所教授	香内晃		
理学部教授			
電子科学研究所教授	下村正嗣		

行事予定

月	日	曜	事 項
4	3	火	学位申請(4月付託)締切
	4	水	理学研究科入学式
	5	木	平成12年度第2学期学部専門科目成績提出締切12:00
	6	金	学部新入生オリエンテーション及びガイダンス
	9	月	北海道大学入学式
	9	月	第1学期授業開始
	9	月	専攻長・学科長会議 13:30
	11	水	全学教育部第1学期授業開始
	13	金	研究科教授会 13:30
	13	金	学部教授会 15:30
5	18	水	履修届受付(～19日)
	20	金	理学研究科評議員候補者選挙、臨時研究科教授会
	24	火	学位申請(5月付託)締切
	26	木	北海道・東北地区国立大学理学部長会議(～27日)(弘前)
	7	月	専攻長・学科長会議
	11	金	研究科教授会 13:30
	17	木	国立10大学理学部長会議(～18日)(大阪)
	18	金	6月学位授与予定者の審査報告関係書類提出締切
	22	火	学位申請(6月付託)締切
	28	月	専攻長・学科長会議 13:30
6	1	金	研究科教授会 13:30
	1	金	学部教授会 15:30
	7	木	開学記念行事日
	7	木	大学祭(～10日)
	29	金	学位記授与式
	29	金	専攻長・学科長会議 13:30
7	3	火	学位申請(7月付託)締切
	6	金	入学試験委員会 10:00
	6	金	研究科教授会 13:30
	9	月	修士(博士前期)課程及び博士後期課程願書受付(～16日)
	19	木	全学教育部第1学期授業終了
	23	月	全学教育部補講日(～25日)
26	木	全学教育部第1学期定期試験(～8月7日)	

編集後記

新年度の理学研究科・理学部広報(第15号)をお届けします。

今号の表紙には理学部ホームページのトップページ(<http://www.sci.hokudai.ac.jp/>)を載せました。昨年2月の開設以来一年が過ぎ、本ホームページも理学部の顔として、ほぼ定着しつつあります。ホームページの目玉の一つは、理学研究の最前線に触れてもらうことを目的として3ヶ月ごとに更新される「サイエンストピックス」です。ここでは各学科で現在行われている研究を一般の方にもわかるよう、なるべく易しく解説していただいています。ただ、中にはどうしても易しく表現することが難しい研究分野もあり、原稿を書かれた先生のご苦労が忍ばれるものも散見します。理学部の環境や施設をアピールする場として、アインシュタインドーム等の写真を掲載した「理学部アルバム」も目玉の一つです。ここに掲載する写真は随時募集していますので、適当な写真をお持ちの方はご連絡ください。ホームページは外部への情報発信という役割の他に、内部での各種事務情報の周知の場としても機能しています。「理学部掲示板」がこれにあたり、訃報、研究助成、教官公募、図書室関連情報、奨学金募集などの情報を提供し、いわゆるペーパーレス化に貢献しています。

このようにホームページは順調に機能しているように見えますが、実は大きな問題を抱えています。それはホームページを支えるサーバーの維持・管理の問題です。現在は一教官のご好意でどうにか存続している状況で、本格的な維持・管理体制を早急に整備する必要があります。また、現在のホームページでは情報は一方通行ですが、事務処理をさらに簡素化するためには、双方向性の情報伝達システムを構築する必要があります。これには全学規模での事務情報処理システムの抜本的改革が必要と思われます。ホームページがその真価を発揮するためには、多くの人たちがホームページに興味を持ち、建設的な意見を積極的に出してくださることが重要と考えます。

(山下正兼(生物科学専攻・生物学)記)

北海道大学大学院理学研究科・理学部広報
第15号 2001年(平成13年)4月16日発行
北海道大学大学院理学研究科・理学部広報委員会
印刷・製本 興国印刷株式会社